

読み聞かせオススメ図書【高学年向け】

100万回生きたねこ		あらしのよるに	
	児童 E サ 作:佐野 洋子 絵: 訳: 講談社		児童 E キ【M】 作:きむら ゆういち 絵: 訳: 講談社
100万回生まれかわっては、飼い主のもとで死んでゆく猫。飼い主たちは猫の死をひどく悲しんだが、猫自身は死ぬのなんか平気だった。ある時、猫は誰の猫でもない野良猫となり、一匹の白猫に恋をする…。		荒れ狂った嵐の夜、壊れかけた小屋で、嵐を避けて飛び込んできたヤギとオオカミがハチ合わせ。小屋の中はまっ暗。おまけにお互いかぜをひいて鼻もきかない。2匹はおしゃべりをしていくうちに…。	
ありがとう、フォルカーせんせい		アンナの赤いオーバー	
	児童 E ポ 作:パトリア・ポラッコ 絵: 訳:香咲 弥須子 岩崎書店		児童 E ロ 作:ハリエット・ジーフェルト 絵:アニタ・ローベル 訳:松川 真弓 評論社
トリシャにとって、字は、くねくねした形に見えるだけ。友達に読めないことを笑われて、トリシャの苦しみは増すばかり。でも、新しい先生がやってきて、字が読めないトリシャに特別な練習を始めたのです。作者の自伝的なお話。		アンナは戦争が終わったら、新しいオーバーを買ってもらう約束でしたが、戦争が終わると、お店はからっぽ。お金もありません。どうやってオーバーを買うのでしょうか…。	

いつか帰りたい ぼくのふるさと		おしっこぼうや	
	児童 645 オ 作:大塚 敦子 絵: 訳: 小学館		児童 E ラ 作:ウラジーミル・ラドゥンスキー 絵: 訳:木坂 涼 セーラー出版
<p>2011年3月11日に起きた原発事故で、すべてが変わってしまった…。警戒区域内で保護され、東京で暮らすことになった猫のキティの目を通して、福島で暮らしていた人々の現実を伝える。</p>		<p>ベルギーのブリュッセルという町に昔から伝わるおはなしです。人びとは小さなぼうやの銅像を立てて、ぼうやとその出来事を忘れないようにしたのです。それは…。だれもが知ってる小便小僧の、あまり知られていないエピソード。</p>	
おとうさんのちず		かさをささないシランさん	
	児童 E 作:ユリ・シュルヴィッツ 絵: 訳:さくま ゆみこ あすなる書房		児童 E イ 作:谷川 俊太郎 絵:いせ ひでこ 訳: 理論社
<p>戦争で故郷を追われたぼくたちが命からがらたどりついたのは、夏は暑く、冬は寒い東の国。食料はとぼしく、土をかためた床の上で眠る毎日に、あるとき、おとうさんは…。 絵本作家が子ども時代を語る感動の自伝絵本。</p>		<p>ある国に、シランさんという若者がいました。ハンサムで親切。みんなからも信頼されていました。そんなシランさんがある日突然逮捕されてしまい…。</p>	

<h2>かたあしだちょうのエルフ</h2> <p>☆大型絵本あり☆</p>		<h2>彼の手は語りつぐ</h2>	
	<p>児童 E オ 作:おのき がく 絵: 訳: ポプラ社</p>		<p>児童 E ポ 作:パトリシア・ポラッコ 絵: 訳:千葉 茂樹 あすなる書房</p>
<p>強くて大きなだちょうのエルフは、子供たちを背中に乗せてドライブする人気者。でもある日子供たちを守ってライオンとたたかったエルフは、大切な脚を一本食いちぎられてしまいます…。</p>		<p>文字を読める黒人ピンクス。そして文字を読めない白人シェルダン。南北戦争を舞台に、そんな二人の少年の出会いと友情、そして別れを描いた、本当にあった物語。</p>	
<h2>木を植えた男</h2>		<h2>紅玉</h2>	
	<p>児童 E バ 作:ジャン・ジオノ 絵:フレデリック・バック 訳:寺岡 襄 あすなる書房</p>		<p>児童 E タ 作:後藤 竜二 絵:高田 三郎 訳: 新日本出版社</p>
<p>ただただかれは、ていねいに一粒ずつ、一粒ずつ、荒地にどんぐりを埋めこんでいった。かれは、カシワの木を植えていたのだ…。 たった一人で荒地はてた地を緑の森によみがえらせた男の物語。</p>		<p>りんごの季節になると父はきまってぼくらにおなじ話を語り聞かせた。りんご畑がおそわれた。手当たりしだいにりんごをもぎとってさわいでいた。川向こうの炭鉱で働かされていた朝鮮と中国の人びとの群れだった…。</p>	

さがしています		さっちゃんのまほうのて	
	児童 E オ 作:アーサー・ビナード 写真:岡倉 禎志 訳: 童心社		児童 E サ 作:たばた せいいち 絵: 訳: 偕成社
<p>ピカドンを体験した声なき「もの」たちが、さがしています。たいせつな人びとを、未来につづく道を…。</p> <p>広島平和記念資料館に収蔵されている14の「もの」がカタリベとなり、1945年8月6日に何が起こったのかを伝えます。</p>		<p>さっちゃん、幼稚園のままごと遊びでお母さんをやりたいと思っていました。</p> <p>でも、お友達がダメだと言います。さっちゃんの右手の指がないから。手のないお母さんなんて変だと言われてしまい…。</p> <p>(先天性四肢生涯父母の会共同制作絵本)</p>	
はらっぱ		にぐるまひいて	
	児童 E ニ 作:神戸 光男 絵:西村 繁男 訳: 童心社		児童 E ク 作:ドナルド・ホール 絵:バーバラ・クーニー 訳:もき かずこ ほるぷ出版
<p>町のかたすみに、ぽっかりあいた小さなはらっぱ。そこだけ、はるかむかしの土のおいがる…。</p> <p>戦争、戦後、そして今、「はらっぱ」を通して、ある町の60年間のうつりかわりを描く。</p>		<p>10月、とうさんは荷車に牛をつなぎ、それからこの一年間にみんなで作り育てた物を何もかも荷車に積み込んだ。</p> <p>古き良き時代のアメリカの暮らしぶりを描いた絵本。</p>	

<h2>八郎</h2>		<h2>ハルばあちゃんの手</h2>	
	児童 E タ 作: 斎藤 隆介 絵: 滝平 二郎 訳: 福音館書店		児童 E キ 作: 山中 恒 絵: 木下 晋 訳: 福音館書店
<p>昔、秋田の国に山ほどの大きさがある、八郎という大男が住んでいた。ある日、小さな男の子が泣いていた。毎年海が荒れ、男の子の親の田んぼが駄目になってしまうと言う。話を聞いた、心優しい八郎は...。秋田弁で語り継がれる名作。</p>		<p>ハルは海辺の小さな村に生まれた。「おや、ほくろのあるいい手じゃ。きっとこの子は器用だし、幸せになるよ」とみんながいった...。暮しを育て、愛を育み、死を見おくるハルの手をとおして綴られる、静かな物語。</p>	
<h2>ブレーメンの音楽隊</h2>		<h2>へいわってどんなこと？</h2>	
	児童 E ウ 作: グリム 絵: バーナデット 訳: ささき たづこ 西村書店		児童 E ハ 作: 浜田 桂子 絵: 訳: 童心社
<p>ロバ、イヌ、ネコ、オンドリの4匹は、一緒にブレーメンの街を目指してでかけます。日が暮れて、たどり着いたのはどろぼうの家でした。</p>		<p>きっとね、平和ってこんなこと。戦争をしないこと、爆弾なんか落とさないこと、家や町を破壊しないこと...。日本・中国・韓国の絵本作家が手をつなぎ、子どもたちにおくる平和絵本シリーズ。</p>	

ルリユールおじさん		ローザ	
	<p>児童 E イ 作:いせ ひでこ 絵: 訳: 講談社</p>		<p>児童 E コ 作:ニッキ・ジョヴァンニ 絵:ブライアン・コリアー 訳:さくま ゆみこ 光村教育図書</p>
<p>ソフィーの大事な植物図鑑がこわれてしまった。町の人から「ルリユール」のところに持っていくといいと聞いたソフィーは、ある路地裏の工房を訪ねる。そこで、本造り職人のおじさんに図鑑を直してもらうことになり …。</p>		<p>「公民権運動の母」として有名なローザ・パークス。彼女の静かな決断が、やがて全米を動かす大きな運動を引き起こした。時代を超えて、すべての人々に夢と希望を与えるノンフィクション絵本。</p>	